基本方針３　県民の生涯にわたる学びへの貢献

・定量評価（Ａ=100%以上　B=90～100%　C=80～90%　D=70～80%　Ｅ=70%未満）

・総合評価（Ａ＝成果を上げている、Ｂ＝順調に進んでいる、Ｃ＝概ね順調に進んでいる、Ｄ＝順調に進んでいるとはいえない、Ｅ＝事業の見直しが必要）

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	県民の読書環境の整備	・利用しやすいレイアウト変更等 ・資料の充実 ・電子書籍サービスの充実 ・読書バリアフリー環境の充実	入館者数	300,000人	○　館内のテーマ展示の工夫や、文書館・生涯学習推進センターのイベントや行政連携展示と連携した展示など、興味・関心を持って来館してもらえるよう取り組んだ。 ○　こむすびルームや電子書籍サービスの利用をきっかけに来館利用が伸びるように、各種サービスの広報を積極的に行った。	305,085人 （前年度実績288,044人 対前年度比106%）	達成率102% 評価Ａ	○　見直し後の目標値は、達成することができた。（開館日1日当たり1,017人・対前年度比99%） ○　次年度も、図書館サービスの充実に加えて預かり保育サービスや電子書籍サービス、閲覧室展示等の魅力発信に継続して取り組み、目標達成につなげていく。 ○　複合施設である強みを活かし、引き続き３館で連携して取組を進めながら、入館者の増につなげる。	入館者数については目標値を下げたことによって達成率はＡ評価となったが、今後の県内人口の減少を見据えて、入館者数ではなく県民利用率などの母数の減少に応じた指標なども今後は検討していただきたい。
			個人貸出冊数	350,000冊	○　資料費が年々削減されているが、今年度も限られた予算の中で効果的・効率的な選書に取り組むとともに、閲覧室展示では時事的なテーマの展示や県各所属との連携展示を積極的に行い、資料の利用促進を図った。 ○　こむすびルームの預り保育サービスをきっかけに図書館の資料を利用してもらえるように、一般資料も含め新着図書コーナーのメンテナンスを恒常的に行う等、魅力ある棚作りに努めた。	371,158冊 （前年度実績364,686冊 対前年度比102%）	達成率106% 評価Ａ	○　資料費が削減される中で、より効果的・効率的な選書と、展示等による資料のPRに取り組んだ。 ○　児童用新着棚で行った恒常的な資料補充等のメンテナンスと同様に、一般資料の新着図書コーナーでもメンテナンスを行ったことが、貸出増加につながった一因と思われるため、次年度以降も同様の取組を続けていく。 ◯　複合施設である強みを活かし、３館が連携した取組を進めることで貸出冊数の増加を図る。	貸出数は目標値を下げたこともあるが、資料費が少ない中でＡ評価となったのはテーマ展示などの職員さんの創意工夫の貢献が大きいと考える。根本的には資料費の増大が不可欠であり、引き続き関係部署に資料費の増額を強く働きかけていただきたい。
			電子書籍閲覧回数	36,000回	○　新規利用者の獲得を目指し、県内の図書館等に訪問して電子書籍の使い方を案内し、操作を体験してもらう体験会を実施した。今年度は読書週間に合わせ10月から11月に、新潟市江南区、上越市の高田地区と直江津地区、十日町市、南魚沼市の５か所で開催したほか、図書館職員対象の会議や訪問研修等の機会も活用してPRを行った。 ○　６月から毎月、当館SNSに電子書籍の閲覧回数ランキングを投稿して情報を発信し、さらに12月からは、記念日等に合わせて関連するコンテンツを出版社の使用許諾を得た書影とともに紹介するなど、電子書籍サービスの認知度向上を図った。 ＜実績・予定＞ 12月　漢字の日『漢字なりたち図鑑』 １月　鏡開き『餅と日本人』 ２月　冬季オリンピック『くらべてわかる国旗』、猫の日『作家と猫』 ３月　サボテンの日『多肉植物の名前400がよくわかる図鑑』、動物愛護デー『いきもの寿命図鑑』 ○　電子書籍サービストップページにある本棚のテーマを、閲覧回数等を参考に利用状況を把握し、ニーズに合ったものへ変更した。	18,558回 （前年度実績20,372回　対前年度比91%）	達成率52% 評価Ｅ	○　利用拡大を目指して体験会や当館SNSを活用した広報を実施しているが、新規コンテンツの購入点数減少等により利用者の興味を喚起する効果が小さくなっており、閲覧回数は昨年同期比の約90%、今年度の目標値の50%前後にとどまっている。 ○　体験会では利用登録の申請はあるものの、その後の閲覧回数が増えておらず、固定ユーザーの獲得には結びついていないと思われる。このため、厳しい財政状況の中において限られた予算ではあるが、ニーズに合ったものを提供できるよう、きめ細かい選書を心がけ適切な資料構築に取り組んでいく。また、当館SNS等でのコンテンツ紹介やトップページの本棚のテーマ更新等、各種PRを継続しながら「どこでも利用できる」電子書籍の魅力を発信していく。 ○　図書館に限らずイベントなど人の集まる場所での体験会などを実施し、電子書籍サービスのPRに取り組んでいく。	電子書籍閲覧回数については、実態に応じた目標値に見直してもよいと思います。 電子書籍は目標値を下回っているが、県立図書館としての機能を果たす、事典・辞書や専門書が中心の蔵書構成になるので、目標値に届かないことは致し方ない部分もあると考える。引き続き、他県の電子図書館の状況なども鑑みながら方策を検討していただきたい。 電子書籍についての偏見がまだあると思う。手軽に気軽に利用できることを引き続き紹介していただきたい。県立図書館が資料収集をしながら歴史を重ねているので、その重みをぜひ県民の学びに生かせるように頑張っていただきたい。
			県内の読書バリアフリー環境の充実		○　県視覚障害者情報センター並びに県聴覚障害者情報センターと連携して市町村図書館等職員向けの障害者サービス研修を行い、県内図書館における障害者サービスのボトムアップを図った。 ○　読み上げや白黒反転表示等のバリアフリー機能を持つ電子書籍や大活字本、LLブック、触る絵本等の障害者サービス用資料の充実を図った。 ○12月に読書バリアフリー展示会と体験会を開催した。			○　サピエに関する問い合わせや障害者サービスの新規利用登録があり、対面朗読サービスやデイジー図書の貸出サービスが継続して利用されている。今後も広報を続けて普及を図っていく。 ○　視覚障害のない児童が、触る絵本を借りて行くような状況も生まれている。障害者サービスへの理解・普及のために、今後も引き続き資料の充実を図る。 ○　今後も研修等を通じて、利用者の障害の特性に応じたサービスの提供方法について検討していくとともに、携わる職員への研修にも継続して取り組んでいく。	読書バリアフリーについても、読書バリアフリーの展示などを既に実施している点は大いに評価できます。県内図書館への読書バリアフリーへの啓発なども引き続き行っていただきたい。 障害者の図書館利用については、外出をすることも含め社会参加の大きな一つとなると思われる。様々な方への対応について、職員の力量を高めていただけるのは喜ばしい。 昨年、図書館の蔵書数が増えると高齢者の要介護リスクが減少するという報道もあり、工夫しながら蔵書数の確保に努めていただきたい。
	県民の調査研究活動の支援	・調査相談（レファレンス）機能の向上 ・県民へのPR	レファレンス協同データベースの登録件数	40件	○　利用者から寄せられた調査相談から、郷土に関するテーマを中心に、県民の調査研究活動に資する事例を精査し選定、登録した。 ○　特定のテーマやトピックの情報源を案内する調べ方マニュアルについても、今年度新たに登録を行った。	46件 （前年度実績42件 対前年度比110%）	達成率115% 評価Ａ	○　今年度は、当館がこれまでにレファレンス協同データベースで公開した事例770件に対して、130,817件のアクセスがあった。このうち「節分」についての事例はレファレンス協同データベースのSNSで季節のトピックとして紹介されたこともあり、参照数約55,500件と大幅な伸びを記録している。（2026年2月現在） ○次年度以降も、県民の調査研究活動を支援するため、より良い事例を精査して登録していく。	レファレンス協同データベースへの登録も専門性の高い職員さんのレファレンス事例があって初めて登録できるものなので、毎年しっかりと事例を登録している点が大いに評価できる。ＳＮＳで「節分」がバズったとも質の高いレファレンス回答であったからだと考える。引き続き職員さんの専門性向上に取り組んでいただきたい。

※「入館者数」と「個人貸出冊数」の目標値は、それぞれ当初400,000人、416,000冊としていたが、令和６年度図書館協議会において妥当性について意見があり、協議の結果「入館者数」は令和６年度の一日平均入館者数を維持するものとして300,000人に、「個人貸出冊数」は令和６年度の実績を維持するものとして350,000冊に修正した。
令和７年度の評価は、修正後の目標値に基づき実施した。

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	読書による子育て応援	・こども向けイベント 　の実施 ・利用環境の整備	絵本、児童書、紙芝居の貸出冊数	80,000冊	○　児童コーナーの新着棚や展示棚、面出しスペース等を十分に活用できるよう、常に資料補充等のメンテナンスを行うよう心がけた。 ○　定例の読み聞かせイベントに加えて、ボランティアによる読み聞かせイベントも継続して開催することによって、児童サービスの充実を図った。また、こむすびルームを活用して読み聞かせや上映会等のイベントを実施した。 ○　日々の書架整理や新着資料の即時配架など、資料提供の基本的な業務を確実に実践するとともに、読み聞かせイベント等の、本と人をつなぐ場の充実に取り組んだ。	78,425冊 （前年度実績70,632冊 対前年度比111%）	達成率98% 評価Ｂ	○　預かり保育や新着棚のメンテナンス等の取組により前年度比では増加となり、目標は概ね達成した。次年度はさらに面見せスペースを増やすなど、貸出冊数の増加に取り組んでいく。 ○　読み聞かせイベントも参加者が増加しており、預かり保育をきっかけに参加する親子も見られる。次年度も参加者と貸出の増加につながる魅力的なイベントづくりに取り組んでいく。 ○　こむすびルームのイベントでは、図書館利用と資料の貸出につながる様に、関連展示や図書館サービスのPR等を行っていく。 ◯　複合施設である生涯学習センターの児童・子供向けイベントとも連携した取組を進めることで、貸出冊数の増加を図る。	読書による子育て応援も「こむすびルーム」の開設効果や資料費が少ない中でも児童書や児童サービスにしっかり取り組んだ実績が表れていると考える。
	SNSによる情報発信	・投稿内容の充実 ・効果的な情報発信	SNSの投稿回数	120回	○　SNSの特性を活かして、利用者が閲覧しやすい時間を意識しつつ予約 投稿をしたり、利用者の興味を喚起するためにクイズ形式の投稿を行う など、フォロワーの増加も目指して情報発信に取り組んだ。	144回 （前年度実績136回 対前年度比106%）	達成率120% 評価Ａ	○　連携イベントの情報や電子書籍サービス、越後佐渡デジタルライブラリー等のPRをSNSで発信し、幅広い年齢層に向けた周知に力を入れた結果、目標を達成した。 ○　次年度以降も、図書館の情報発信に積極的に取り組んでいく。	
県立図書館職員の能力の育成	職員の研修機会の充実	・研修に参加しやすい 　環境の整備 ・研修成果の共有と 　自己研鑽	外部講師による研修の参加回数	40回	○　課や職員同士で業務を分担しながら職員の受講機会の確保を図るとともに、遠隔地での研修であってもオンラインで参加できる研修には積極的に参加するなど、様々な研修への参加により、職員の知識・能力の向上を図った。 ＜主な実績＞ ・図書館司書専門講座（オンライン併用） ・関東地区公共図書館協議会研究発表大会（オンライン併用） ・こども読書レベルアップ研修会（オンライン併用） ・読書バリアフリー研究会 ・北陸地区公共図書館職員研修会（オンライン） ・社会教育関係職員等研修会（オンライン） ・シンポジウム　図書館とWebサイト（オンライン） ・障害者サービス担当職員向け講座（オンライン併用） ・全国公共図書館研究集会サービス／総合・経営部門（オンライン） ・ワークショップ図書館の未来準備（オンライン） ・JLA認知症バリアフリー図書館特別検討チーム研修会（オンライン） ・関東・甲信越静地区図書館地区別研修　（オンライン併用）	45回 （前年度実績50回 対前年度比90%）	達成率113% 評価Ａ	○　業務分担の柔軟な変更や館内の協力体制を築くことにより、司書専門講座や地区別研修等の全国規模の研修等の参加機会を確保して司書職員の能力向上を図ることができた。 ○　オンライン等を活用することにより、次年度以降も研修の参加機会を確保し、職員の資質向上による図書館サービスの充実を図っていく。	職員の研修機会の充実も、職員さんの専門性を高めるために必須の事柄であり、引き続き、多くの職員さんが複数回参加できるようにしていただきたい。
			職員が講師を務める館内研修の実施回数	4回	○　実務への活用度を重視した四つの研修テーマを決定し、職員が講師 を務める研修を実施した。 ＜実績・予定＞ 「児童サービス研修」（５月） 「障害者サービス研修」（10月） 「郷土資料研修」（12月） 「図書修理研修」（２月予定）	4回 （前年度実績4回 対前年度比100%）	達成率100% 評価Ａ	○　四つのテーマのうち、希望する研修を一つ受講することで、図書館業務のスキルアップにつながった。また、講師を務める職員は、講義を行うことで知識の定着が図られ、発表のスキルアップにつながった。 ◯　研修の開催に当たって、目的及び研修後に目指す姿を明確にすることにより、職員が具体的な目的意識持って受講できるようにした。 ◯　次年度計画の立案に当たっては、実施後のアンケート結果を踏まえて研修内容の更なる改善を図り、県内公共図書館職員向け研修での講師となる人材の育成に取り組んでいく。	職員が講師を務める館内研修も参加者だけでなく、講師役の職員さん自身のスキルアップにもつながりますので、引き続き継続して実施していただきたい。